

ヤードの整備などを進めています。

また、昨年度より港湾計画の改訂に向けて、概ね20～30年後の苫小牧港の目指す姿である「苫小牧港長期構想」の策定に着手しています。この中で、苫小牧港が担う役割の一つとして、我が国における内貿ユニットロード輸送の拠点を掲げ、そのための機能強化

として RORO 船ターミナルとしての埠頭再編なども検討していくことにしています。

引き続き、苫小牧港に期待される役割を果たしていけるよう、労働力不足への対応や食の輸出拡大など、新たな要請や課題についての検討を進め、港湾機能の強化の取組に繋げていきたいと考えています。

■「北方海域技術研究会 平成29年度 技術研究発表会」を開催しました

国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒冷沿岸域チーム、水産土木チーム

2018年2月2日に寒地土木研究所講堂において、「北方海域技術研究会 平成29年度 技術研究発表会」(主催：日本技術士会北海道本部北方海域技術研究委員会、寒地土木研究所)を開催しました。本研究発表会は、港湾・水産関係技術者の技術力向上をめざして、毎年開催しており、技術者同士の交流の場としても貴重な機会となっています。日本技術士会北海道本部と当研究所は2011年11月に「連携・協力協定」を締結しており、連携行事の一環でもあります。

寒地土木研究所寒冷沿岸域チームの木岡主任研究員は「海水のはなしと寒冷沿岸域チームでの研究概要」と題して、海水の形成・構造的性質等の基礎的な話の後、水産土木チームの梶原研究員は「衛星画像による海底被覆物マップを用いた漁場環境の評価手法について」と題して、衛星画像から藻場の繁茂状況を把握する手法について講演を行いました。

北海道水産林務部水産局漁港漁村課の井上真仁専門主任から「漁港内泊地をナマコ増養殖へ有効活用するための検討について」と題して、ナマコの生息環境の

確保を目的とした港内の海水交換シミュレーションなどの事例について講演されました。

また、日本データサービス株式会社水工第Ⅰ部の若森宣人課長は「リニューアルパネルを用いた港湾・漁港構造物の補修方法の紹介」と題して、リニューアルパネルの施工方法を紹介し、この有効性と今後の課題について解説いただきました。

各講演とも興味深い内容であり、会場では活発な質疑が交わされ、この発表会への関心の高さが感じられました。今回の研究発表会には北海道開発局、寒地土木研究所、民間企業等より約70名の参加がありました。主催者の一員として、ここに記して謝意を表する次第です。



写真-2 井上真仁氏の講演



写真-1 会場の様子



写真-3 若森宣人氏の講演